とちぎ 米麦改良

令和６年１月
第131号

(公社)栃木県米麦改良協会
宇都宮市平出工業団地9番地25
☎(028)616-8700

新年のごあいさつ

（公社）栃木県米麦改良協会　代表理事会長　**菊地　秀俊**

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては希望に満ちた新年をお迎えのことと心よりお慶びを申し上げます。

ロシアのウクライナ侵攻は今もなお続き、肥料等の生産資材や燃料等の価格高騰が続いております。我々農業団体は、国・県と連携し農業者の皆様が支援措置を確実に受けられるよう不断の努力を続けて参ります。

米においては、主食用米から飼料用米への作付転換、業務需要の高まりにより在庫がやや改善し、令和5年産の県産米の概算金は前年産を上回る水準となりましたが、今後も継続的な取組が必要と考えております。

また、昨年は、記録的な熱い夏となりましたが、生産者の皆様のご努力もあり、本県においては一等米比率の低下を最小限にとどめることができました。

30年後には、昨年の気象が「異常」ではなく、「普通」になるとの予測もありますので、品種構成や栽培技術の転換に長期的な視点で取り組んでいく必要があると改めて実感しております。

種子生産においては、米、麦においては、ほぼ契約数量を達成できる見込みとなりましたが、大豆は高温乾燥の影響で収量減、小粒傾向となっております。協会では、大豆種子の需要が高まっていることを踏まえ、備蓄種子、転用等により、６年産需要にしっかりと対応できる体制を整えたところであります。

国の政策転換、国際情勢、温暖化など、種子生産を取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、種子生産者の経営に大きな影響を与えております。協会では、こうした需要の変化を、わかりやすく迅速に種子産地の皆様にお伝えできるよう各種改善に取り組んで参りますので、関係各位のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

今年が皆様方にとりまして、幸多い年になることを心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

令和５年産水稲作の概要と
令和６年産水稲の生産技術対策について

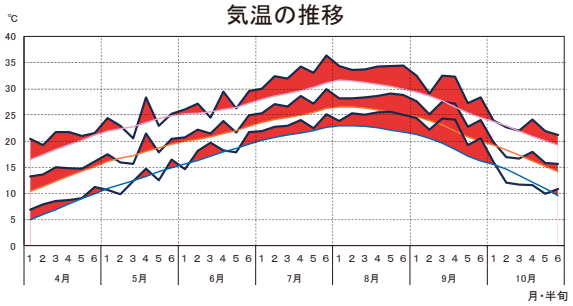
栃木県農政部経営技術課

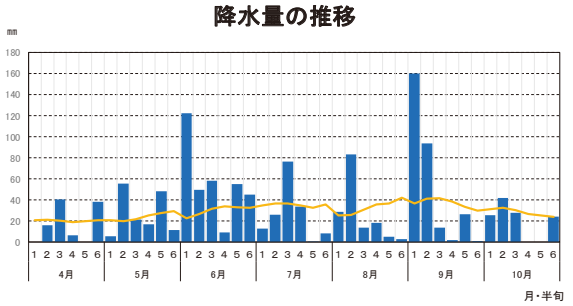
１．令和５（2023）年稲作の概要

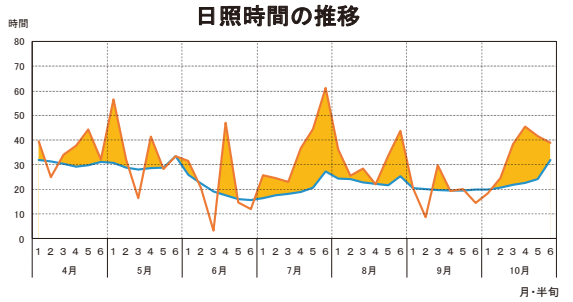
（1）気象及び水稲の生育経過

○気象傾向

令和５年の全国的な気象の傾向は、春から秋にかけて気温の高い状態が続き、低温は一時的だったため、年平均気温は全国的に高くなり、特に北・東・西日本でかなり高くなりました。昭和 39（1946）年の統計開始以降、北・東日本では年平均気温が１位の高温、西日本では１位タイの高温となるなど、全国的に高温傾向で推移しました。







令和 5(2023) 年 気象経過（宇都宮 AMeDAS）

このため、全国的に米の品質が低下し令和５年産水稲の１等米比率は 61.2%（4 年産 78.7%）と低下しました（11 月末現在）。栃木県においても１等米比率が 84.1%（4 年産 93.4%）と全国に比べ高い水準ではあるものの、品質が低下した年となりました。

○水稲生育

〈移植～初期生育〉

苗の生育は、高温による発芽不良がやや多い傾向でありましたが、おおむね健苗が確保されました。また、代かきや移植作業は、県北の一部で水不足がありましたが、おおむね順調に行われました。

初期の生育は草丈・茎数・葉齢・葉色とも概ね前年並で生育しました。

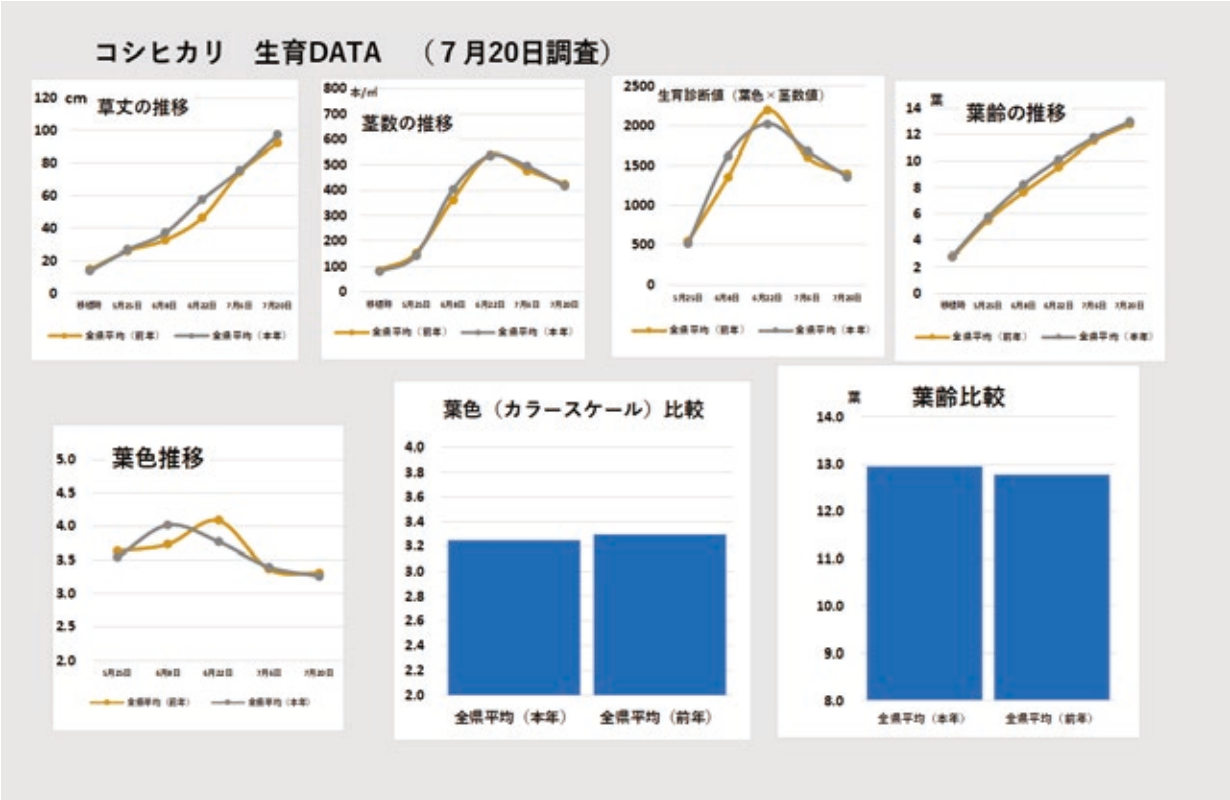
〈生育中期～出穂期〉

分げつ期以降は、茎数がやや少なく葉色は淡く、生育量（草丈×茎数）は前年を下回りました。草丈のみ前年より高くなりました。

早植えコシヒカリの出穂期の平均は７月 21 日で前年より４日早く、昭和 62（1987）年の生育診断ほ調査開始以来最も早い出穂期となりました。

○収量・品質

本県の令和５年産水稲の作況指数は 104 の「やや良」となりました。茎数がやや少なく経過したことで、穂数はやや少なく、一穂籾数が平年並みとなったことから、総籾数は平年並みになりました。登熟期間が高温多照で経過した



ため、登熟歩合･千粒重が増加したことにより、多収となりました。

11 月末時点のうるち米の 1 等米比率は 84.1%と、夏期の高温の影響により平年に比べ低下しました。2 等以下の格付け理由の主なものは、白未熟粒、カメムシによる着色米、胴割米が特に多くなりました。高温障害に強い「とちぎの星」は品質の低下が少なく、品種の特性が発揮される結果となりました。

表－1　水稲作柄概況（R5.12.12　関東農政局発表）

項目／地域	県北	県中	県南	県全域
単収（kg/10a）	577	553	507	553
作況指数	104	105	103	104
平年差(kg/10a)	＋14	＋17	＋2	＋13

表－2　農産物検査結果（速報）

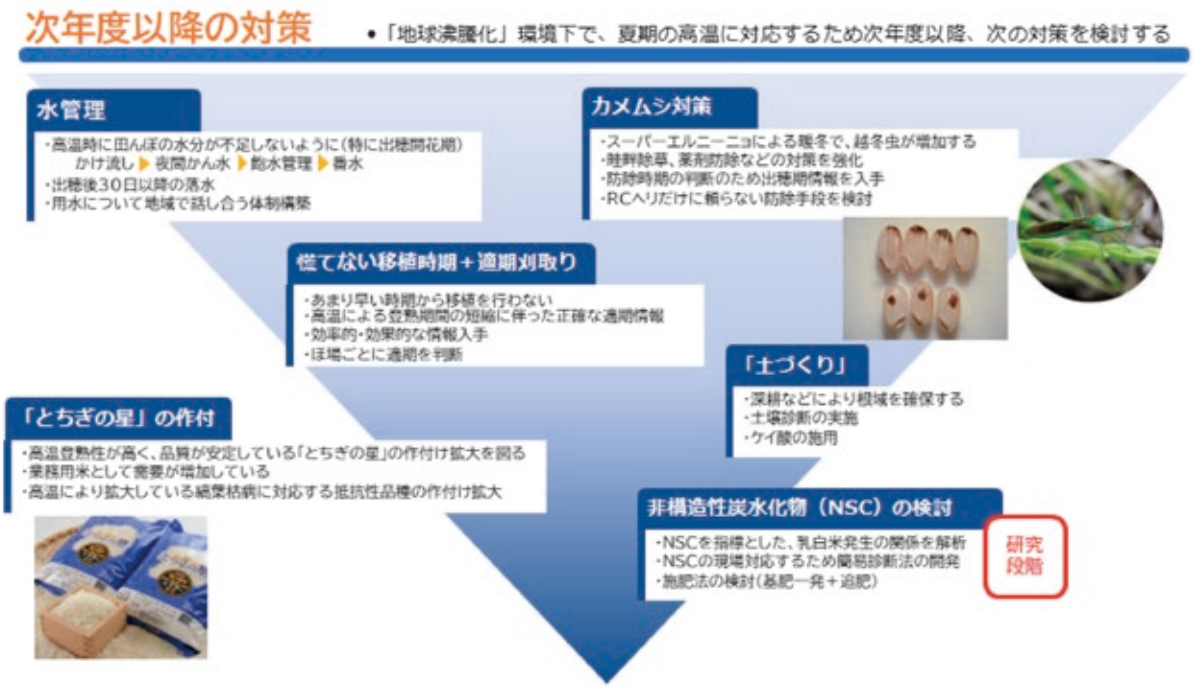
年産	品種	比率（%）			
		1 等	2 等	3 等	規格外
R5	うるち米全体	84.1	14.5	1.0	0.4
	コシヒカリ	85.6	13.5	0.8	0.1
	とちぎの星	93.1	6.3	0.3	0.2
R4	うるち米全体	93.4	5.7	0.4	0.5
	コシヒカリ	92.2	7.3	0.4	0.1
	とちぎの星	97.2	2.2	0.3	0.3

2．令和６(2024）年産水稲生産技術対策

国連のアントニオ・グテーレス事務総長は、「地球は沸騰化の時代」に入ったと述べたように、気候変動が大きい中で安定した稲作を継続するためには、全天候型の稲作技術を展開する必要があります。そのためにも、次の事項に留意しながら水稲の栽培を行ってください。

(1）高温時の水管理

特に出穂期～出穂後 20 日間の平均気温が 27℃より高くなると、白未熟粒の発生が高くなります。また、この時期に用水が不足すると被害が拡大しますので、適正な水管理を行うことが必要です。また、落水も出穂後 30 日以降として品質確保に努めてください。



(2) 斑点米カメムシ類の防除

今年は、スーパーエルニーニョ現象が継続しており暖冬傾向で経過しています。令和５年の夏が高温で経過したことから、斑点米カメムシ類の虫数が増加したことに加え、暖冬傾向により越冬虫の数が多いことが予想されます。出穂前の畦畔管理（草刈り）や適正な薬剤により、カメムシ類の適正防除を行いましょう。

(3) 土づくり

水稲の収量・品質の向上を図るため、深耕の実施や、たい肥・土づくり肥料を積極的に施用するとともに、土壌診断に基づく適正な施肥を行いましょう。

(4)「とちぎの星」の作付推進

高温登熟性が高く、品質が安定している「とちぎの星」の作付を検討してください。令和５年度のような猛暑の夏でも、品質を確保することができました。さらに、縞葉枯病の発生地帯でも耐病性を有しているため、安心して栽培できます。

(5) 適期刈取りの実施

出穂後 10 日間の最高気温が高く経過すると、玄米の構造が脆弱となり、胴割米が発生しやすくなります。特に刈取り適期（帯緑色籾率 10%～5%）を過ぎると、極端に胴割米の発生率が高くなります。ほ場をよく確認して、刈遅れが無いように収穫作業を進めてください。

令和６年産用稲種子の需要動向（備蓄の増減）

単位：ｔ，％

品種		確保					需要見込（10月※）（ｔ）	備蓄見込（t）	需要に占める備蓄の割合（%）	
		令和５年産稲種子生産			前年備蓄	計（ｔ）				
		契約数量	生産見込	対比						
		A	B	B/A	C	①＝B+C	②	③＝①-②	③/②	前年
主食用	コシヒカリ	888	888	100	279	1,167	883	299	34.5	30.9
	あさひの夢	146	146	100	133	279	224	55	24.8	41.4
	なすひかり	43	43	100	44	87	48	39	81.0	82.7
	とちぎの星	280	336	120	115	451	343	92	25.8	32.1
	夢ささら	1	1	100	1	2	1	1	59.0	76.2
	きぬはなもち	14	14	100	5	19	16	3	24.2	33.0
飼料用多収	夢あおば	372	490	132	0	490	51	439	866.9	―
	月の光	150	162	108	0	162	109 (県内93県外16)	53	57.5	―

※JA 全農とちぎが１０月上旬で取りまとめた６年産用稲種子予約に本会が推定した当用申込、県外需要を加算

・とちぎの星、あさひの夢、夢ささらの備蓄が減っています。

・なすひかりの備蓄超過が常態化しており、コシヒカリも備蓄が増加傾向にあります。

・夢あおばは、需要が見込を下回り、約９割が在庫となっています。

令和６年産稲種子生産計画

ア、品種別

品種名	令和６年産稲種子生産計画（案）			面積 R6 /R5 (%)
	面積(ha)	反収 (kg/10a)	数量(t)	
コシヒカリ	208	400	832	94
あさひの夢	47	440	205	141
なすひかり	10	400	41	95
とちぎの星	99	440	435	156
夢あおば (飼料用米多収品種)	0	560	0	0
月の光 (飼料用米多収品種)	18	440	77	51
夢ささら	1	400	1	100
きぬはなもち	4	360	14	100

イ、種子場別

種類	JA名	品種名	種子生産ほ場面積			反収 (kg/10a)	令和６年産稲種子生産計画 (t)	摘要
			令和６年産		令和５年産			
			面積 (ha)	前年対比 (%)	面積 (ha)			
水稲	なすの（黒羽）	コシヒカリ	147	95	156	400	590	段階減産
	なすの（塩那）	月の光 (飼料用米多収品種)	18	51	34	440	77	
	なすの（大田原）	夢ささら	1	100	1	400	1	
		計	165	91	190		668	
	なす南	コシヒカリ	61	91	66	400	242	段階減産
	しもつけ	あさひの夢	47	141	33	440	205	
		とちぎの星	67	211	32	440	295	
		きぬはなもち	4	100	4	360	14	
		夢あおば	0	0	66	－	0	
		計	118	87	135		515	
	はが野	とちぎの星	32	100	32	440	140	
	しおのや	なすひかり	10	95	11	400	41	
合計			386	89	434		1,607	

（有機栽培種子）　　単位：ha, t, %

種類	品種名	令和６年産種子生産計画			令和５年産種子生産計画			摘要
		面積 (ha)	反収 (kg/10a)	数量 (t)	面積 (ha)	反収 (kg/10a)	数量 (t)	
水稲	コシヒカリ	1	130	2	1	130	2	民間稲作研究所

令和６年産米の生産・集荷・販売に向けて

全農栃木県本部　米麦部

１．はじめに

日頃より本会米麦事業につきましては、多大なるご理解・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、令和5年産主食米は、国が基本指針において、令和5年産主食用米生産量を令和4年産同水準と示しました。国の指針を受け本県においては、令和4年産作付け参考値と同水準の生産量とすることで需給バランスの改善が見込まれる範囲内になると見込み、令和4年12月16日の第2回県農業再生協議会通常総会において、令和5年産主食用米の作付け参考値については、令和4年産の44,652haを据え置くこととし、市町農業再生協議会宛てに提示しました。

JAグループは、引き続き「農林水産業・地域の活力創造プラン」に係る米穀事業改革の一環として、「実需者への直接販売」、「買取販売」の拡大等への取り組みを進めています。

令和5年産を取り巻く需要環境は、作付け転換やコロナ禍の終息により改善傾向にあります。令和6年6月末の民間在庫量については、176万トンと前年を21万トン下回る見通しとなっています。

令和7年6月末の民間在庫量を適正に維持するため、令和6年産主食用米は、令和5年産同程度の作付継続に取組む必要があります。

全農栃木県本部では、JA,行政、関係機関とともに需給均衡を図り生産者手取りの最大化を確保するという視点を持って取り進めてまいります。

２、令和５年産の作柄概況

全国における主食用米の作付け面積は124万2千ha（前年比0.9万ha）となりました。

北陸、東海及び近畿は、田植期以降小野日照不足等に加え、一部地域での7月～8月にかけての少雨や7月以降の記録的な高温の影響があったことから平年を下回ったが、その他の地域では一部地域で田植期以降の日照不足や梅雨前線等による大雨の影響が心配されましたが、その後の天候に恵まれたため全国の作況指数は「101」の「平年並み」、予想収穫量は661万トンとなりました。

本県における主食用米の作付け面積は、47,200ha（前年比+1,100ha）となりました。

出穂期以降の高温、多照により作況指数は「104」の「やや良」、予想収穫量は26万1千トン（前年比+1万６千トン）となっています。

３、令和５年産米の集荷・販売状況

「令和5年産生産・集荷・販売方針」及びその具体策に沿って、JA・全農が一体となり、集荷結集に取組み、全農への主食用米の販売委託数量は7万3千トンを見込んでいます。

販売面では、複数年契約を主とした事前契約取扱数量の上積み、実需者への直接推進により栃木米を安定的に使用する取引先への供給拡大と新規販売先の開拓に取組み、需給や作柄変動に左右されない固定実需のさらなる結びつけを図りながら販売を進めています。

特に消費宣伝・販売促進活動では、web媒体を活用した広告宣伝と、その広告宣伝に連動したキャンペーン等を展開することにより、インターネット販売サイト（JAタウン・Amazon等）での販売拡大に取り組みます。

また、「JAグループ栃木のとちぎ米」の栃木米アンバサダーU字工事を活用したプロモーションや、生産者・JAの参加を得た店頭販促活動、購入消費者との産地交流会の拡充に取り組みます。

４．６年産をめぐる情勢

令和6年産米の作付けは、引き続き「需要に応じた米づくり」に取り組む必要があります。

国の指針では、令和6/７年産主食用米等の需要量は、令和５/６年産主食用米等の需要量682万トンから▲10万トンの671万トンと見込まれています。また、令和6年産主食用米等の生産量については、669万トンと令和5年産生産量見通しと同水準で設定されました。これらを踏まえ、県農業再生協議会と連携し県及び市町別の作付参考値（面積）を設定・提示される予定です。

令和7年6月末民間在庫量を需給が均衡するとされる水準（180万トン程度）を維持するために、生産者や集荷団体・関係機関が一体となり令和6年産主食用米についても令和5年産同程度の作付け継続に取り組むことが必要となります。

５．令和６年産米生産・集荷・販売の取組み

令和6年産米生産・集荷・販売については、令和5年12月に策定した「令和6年産米にかかる取扱い基本方針」や、「令和6年産生産・集荷・販売方針」に沿って取組みます。

令和6年産についても、「需要に応じた生産」、複数年契約など事前契約に基づく「契約的生産・販売」をすすめ、広告宣伝・販売促進により、JAグループ栃木のとちぎ米の認知度や指名購買率の向上に取り組みます。

さらに、生産者手取りの最大化に向け、国の「農林水産業・地域の活力創造プラン」に対し、「実需者への直接販売」や「買取販売」のさらなる拡大等に取り組みます。また、主食用米以外について、引き続き水田フル活用の視点による需要に応じた水田活用米穀の作付けを推進し、主食用米の需給と価格の安定および水田営農の持続性を基本として取組みます。現状と課題を踏まえ、生産者・JA及び実需者・消費者へ、しっかりと向き合い提案してまいります。

引き続き、皆様方のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

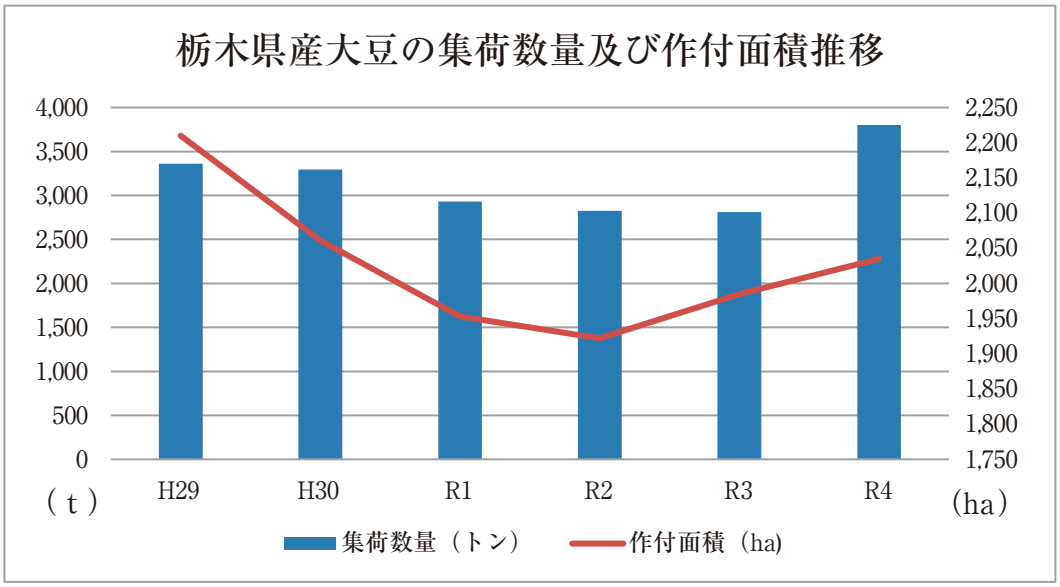
大豆の生産情勢

JA全農とちぎ　米麦部

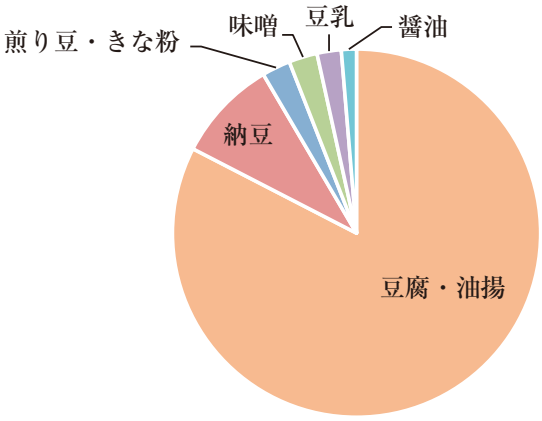
１．令和４年産大豆の作付け動向について

令和４年産の本会全国大豆集荷数量は約176千トン（前年比97％）となった。東日本地区の一部では大雨により生育被害を受け集荷数量は横ばいとなった。

栃木県では作付面積2,035ha（前年比103％）、集荷実績3,800トン（前年比135％）となった。６月上旬の降雨や播種時期に降雨が少なく順調に県内全体で順調に生育が進んだ。その結果、作付面積、集荷数量ともに前年を上回る実績となった。５年産以降の全国的な作付面積拡大と生産回復を見据え、長期的に栃木県の需要を確保するため、引き続き豆腐加工品や納豆などの分野を中心に契約栽培取引等の拡大に努めていく。



２．栃木県産大豆に占める各用途の割合



○　栃木県産大豆需要の特徴として、豆腐・油揚用途への販売がメインである。

○　里のほほえみはタンパク質含有量が多く、豆腐・油揚などの加工適正が高いため、好まれている。

○　一部納豆メーカー（ひきわり）や煎り豆のニーズと合致していることから、里のほほえみの特徴を活かした販売動向となっている。

管内生産者の皆様へ

栃木県産大豆が求められています！

・現在、県内では約3,800トンの集荷があり、その内約2,000トンが契約販売となっています。近年、栃木県産大豆を求める実需は増加しております。

・今後も栃木県産大豆は安定した需要が見込まれていますが、需要に対して供給が足りていないため、実需に対して十分な原料を渡せていない状況にあります。

・下記の通り、栃木県産大豆を使用した商品は増加傾向にあります。実需から求められている栃木県産大豆をより安定した販売につなげるためにも、作付面積の拡大にご協力をよろしくお願いします！

～　栃木県産大豆はこのような商品になっています　～

むつみ　※栃木県産大豆契約栽培実需

○東京都八王子市に本社を置く、大豆、こんにゃく等を扱う大手加工メーカー。国内に4つの工場を持っています。

○国産大豆100%使用、「里のほほえみ」大豆が使用されております。

○消泡剤無添加の豆乳で造り、大豆の甘みがたっぷりのお豆腐です。

アサヒコ　※栃木県産大豆契約栽培実需

○埼玉に本社を置く、豆腐・油揚等の製造と販売を行う国内有数の加工メーカーです。

コープデリ　※ＪＡなすの産大豆指定契約実需

○大豆固形分11%、皮付き丸大豆をすり潰し大豆風味豊かなコクと甘みがあります。

ＪＡ全農とちぎでは、管内大豆の実需者への結び付けに積極的に取り組んでいます。
実需者への安定供給に向けた作付面積拡大へのご協力をよろしくお願いいたします！

（公社）米 麦 改 良 協 会 情 報

◆令和５年産大豆種子下見指導会等について

令和５年産大豆種子について、11月下旬に調整程度確認会を開催し、本年の水分・皆掛重量及び品質等について確認を行いました。また、県経営技術課より、大豆の作柄状況について、夏場の高温により粒の肥大が抑制され小粒傾向であることや、害虫の世代交代が例年より１世代多く行われたことによる害虫による食害の影響が遅くまでみられたこと。葉焼病の発生が見られることから、生育は「やや不良」収量・品質とも懸念されるとの説明がありました。

各種子場JAにて下見指導会が12月中旬に実施され、農産物検査員等の指導の下、各種苗生産者が調製を行っている製品について、入念な確認が行われました。

本年は、契約数量の80％程度の確保に留まるとみられます。大豆種子については、備蓄もほとんどなく需要に見合う数量の確保が求められています。準種子の規格を活用してより多くの種子の確保に努めていきます。

なお、生産物確認及び農産物検査は12月下旬から実施されています。

下見指導会の様子（JAなすの・大田原）

下見指導会の様子
（JAなす南）

◆令和５年度第３回理事会を開催しました

令和５年11月30日（木）に第３回理事会が栃木県JAビル研修室２で開催されました。

協議事項の第１号議案「令和５年度残量処理計画（案）について」は、協議の結果、原案のとおり可決承認されました。

報告事項として、下記の７件の報告が承認されました。

（１）令和５年度上期事業報告について
（２）令和５年産麦類種子生産実績及び令和６年産用需給状況について
（３）令和６年産麦類種子生産計画について
（４）令和６年産麦類種子生産者価格について
（５）令和４年産種子事故処理負担金について
（６）令和５年産種子事故処理負担金について
（７）令和６年産用稲種子需給状況について

◆５年ぶりに種子生産研修会（宿泊）を開催します！

新型コロナウイルスの感染拡大により、令和元年度以降、開催を見合わせてきた宿泊研修会を5年ぶりに開催します。

この5年間で、種子生産を取り巻く環境は大きく変化し、種子生産者の経営に大きな影響を及ぼしていることを踏まえ、今回は、稲、麦、大豆の分科会に分かれ、それぞれの課題を掘り下げる研修会とすべく準備を進めています。

この研修会で各種子場での課題の共有や懇親が深められればと考えています。

種子生産者の皆様の積極的な参加をお待ちしています。

・日時：令和6年2月15（木）～16日（金）
・場所：日光きぬがわ　ホテル三日月（鬼怒川温泉大原1400）
・研修内容（調整中）
　（1）共同研修（優良産地表彰、情勢報告他）　13：30～
　（2）分科会（稲、麦、大豆）　14：45～
・参加費（宿泊費）　1人　10,000円

New Seed Producer

アーデルファーム株式会社（那須塩原市）

大貫　敏和 社長（54才）

田中　　望 専務（48才）

アーデルファーム㈱大貫社長（左）、田中専務（右）

なぜ、「月の光」の種子生産を始めたのですか？

・「農業で地域が豊かになることを目指したい」という思いから地元の消防団の活動で知り合った４人で令和３年６月に会社を設立しました。現在は、稲50ha、麦類14ha、大豆18haを作付けしています。

・経営の拡大と安定を図ることを検討していたところ、「月の光」の種子生産を勧められました。主食用米の価格が下落する中で種子の生産に、収益的なメリットがあると考えたことから今年産は34haの作付けを実施しました。

はじめての種子生産の感想は？

・雑穂抜きや丁寧な乾燥・調整など一般栽培と異なる点も多く、想像の100倍は大変でした。種子は混種が許されないことから、雑穂・漏生抜きに多大な労力・時間を費やすとともに、コンバイン１台と乾燥機２台を種子用にするなど、大きな設備投資を図ることでコンタミリスク低減に最大限努めました。

・種子生産は技術面での不安がありましたが、ＪＡ・振興事務所の職員の方々に都度相談に乗っていただいたことで収穫までたどり着くことができました。「月の光」種子は栃木県内で自分達のみが生産すると聞いたので、「自分たちが失敗したら栃木県の「月の光」種子がなくなってしまう」という不安と責任は常に感じていました。

今後の経営展開について？

・将来的には、規模拡大を考えています。具体的には令和８年産で稲100ha（+50ha）、麦類30ha（+16ha）、大豆30ha（+12ha）を計画しています。

・近隣は農業従事者の高齢化が進んでいることから毎年離農する人が増えています。そのような状況の中で「アーデルファームになら田んぼを任せたい」と思ってもらえるような信頼される存在となり、農業で地域を守っていきたいと考えています。